



西部センターだより 3号

H26.12.5

ねねの「忍ぶ心」

今年1月に、京都市の高台寺を訪れる機会を得ました。高台寺は、豊臣秀吉の正室である北政所ことねねが、秀吉の冥福を祈って建立した寺です。当日は、茶室に招かれて圓徳院のご住職の法話を聴きました。室内に入ると、外の寒さとは違い適度な暖かさが感じられ、ほんのりしたお香は気持ちを落ち着かせてくれました。そして、薄茶と京菓子も私たち客人に振る舞われてご住職の「おもてなしの心」を深く感じました。

さて、ご住職はねねの話をしてくださいました。秀吉の死後、ねねは出家して高台院と号しました。そして、この寺を建立するに当たり、家康からは大きな金銭的、人的な援助があったそうです。こうしたことから、彼女の人柄を推察することができます。



ご住職によれば、ねねが亡くなってから家康に宛てた書状が見つかったそうです。その内容は、秀吉亡き後の家臣たちに対して処分の減刑を懇願するものでした。そうした素振りを、ねねは生前一切家臣たちに見せなかったそうです。相手からの見返りを求めることなく、ただ相手のことを思い遣る心をもって黙々と物事を行う気持ちが「忍ぶ心」であるとおっしゃいました。この「忍ぶ心」の大切さを私たちに説かれました。仏教では、陰徳を積むと言うそうです。

毎週日曜日の午後8時から放映されている「軍師官兵衛」が最終回に近づきました。ご住職の話のお陰で、この番組を毎回楽しみにしています。とりわけ黒木瞳さんが演じるねねから目が離せなくなりました。

話は変わります。今月4日から人権週間が始まりました。「忍ぶ心」に通じる思い遣りの心を私たち一人一人が大切にしなければならないと改めて思います。併せて、当センターが開発しました「いじめや児童虐待予防のための親学プログラム2（試行版）」は、子どもたちの人権を大切にすることが根底にあります。私たち大人の役割は、子どもたちの人権を守ることです。そのために、大人同士がみんなで考えつなげることが大切だと感じます。ぜひこのプログラムをそれぞれの地域やグループなどでご利用いただきたいと思います。

所長 狩野 正夫

お知らせ

集まれ！しまねの元気な“子どもを支える人”

一日のみの参加OK！



実践発表交流会

平成26年12月17日(水)・18日(木)開催

会場/県立青少年の家サンレイク (出雲市小境町 1991-2)

1日目/実践発表(13:00～)・情報交流会(18:00～)

<実践発表会>

第1会場

- ・“夫の精神”で人と地域をつなぐふるさと教育 (西ノ島町)
- ・大田市の親学ファシリテーターの活動 (大田市)
- ・広瀬地域の交流センターが連携して行う教育支援活動(安来市)

第2会場

- ・六日市地区「サクラマスプロジェクト」 (吉賀町)
- ・松江市での親学の歩みとこれから (松江市)
- ・地域の自然と人で子供が育つ 自主運営のサタデースクール (奥出雲町)

2日目/パネルディスカッション・講演(9:00～12:20)

<パネルディスカッション>

- 「地域ぐるみで子どもの育ちをどう支えるか」
- コーディネーター: 志々田 まなみ氏(広島経済大学准教授)
- パネリスト: 土江 博昭氏、常角 敏氏、花田 香氏

<講演>

- 「『結集！しまねの子育て協働プロジェクト』のこれから」
- 講師: 清國 祐二氏 (香川大学生涯学習教育研究センターセンター長)

これまでの研修（対象者別）のご紹介

社会教育委員研修 7月30日(金)10:00～ / いわみーる 101 研修室

講演:「社会教育委員に期待すること」

(講師) 有馬 毅一郎 氏(県社会教育委員連絡協議会会長)

実践発表:「動きを創り出す社会教育委員の会」

(発表者) 馬場 真由美氏(浜田市社会教育委員の会前会長)

村木 勝也 氏(浜田市教育委員会生涯学習課係長)

説明: 山本 芳正 氏(県教育庁社会教育課)



有馬氏

有馬先生は、実践することの大切さを話され、実際にご自身の地域での活動を紹介してくださいました。そこには、地域の課題を見極め、仲間と共に地域をよくしていこうとする心意気をもって取り組まれる姿がありました。

*パイプ役・告知板・代弁者

実践発表&インタビュー



村木氏

馬場氏

馬場さんには、平成21年に教育委員会から「社会教育のあり方」について諮問を受けたのをきっかけに、委員として、大きく動きだされた様子を語っていただきました。アンケートや公民館への調査、自主勉強会、研修を重ね、答申に向け活動されました。その中で、社会教育推進の拠点が**公民館**であること、委員としての***役割**などを再認識されました。村木さんには行政の立場で指導、支援された様子を、また出された答申を施策へとつなぐ必要性を話していただきました。

演習

わが市町を元気にするために、社会教育委員として自分にてきることは?

第2回コーディネーター研修

10月21日(金)13:00～16:00 / いわみーる 401 研修室

結集!しまねの子育て協働プロジェクト

実践発表

『「地域で子どもを育てる」アフタースクールの取り組み』

(発表者) 秋山 千草 氏

(特定非営利活動法人放課後 NPO アフタースクール)

秋山さんは、放課後は、子どもだけでなく親にとっても様々な課題がある事をあげ、社会で子どもを育てる重要性について話をされました。アフタースクールは、安全で安心できる場であると同時に、子どもたちのやりたいことを叶える場、本物・多様な体験ができる場であるとし、たくさんのプログラムを紹介していただきました。



市内の放課後子ども教室の視察で、飛び入り参加!



秋山氏

アフタースクールの

- ・コンセプトは「社会で子どもを育てる」
- ・ミッションは「放課後の子どもたちを救え」

演習

演習は、即答フリップ方式全員参加型ディスカッション。最後にグループのメンバーで「子どもに伝えたいメッセージ」を明らかにしプログラムシートを作成しました。



第2回公民館等職員研修

11月21日(金)13:15～16:30 / いわみーる 101 研修室

これからの「公民館ふるさと教育」を考える

実践発表:「邑南町の公民館ふるさと教育の実践」

(発表者)

大橋 覚 氏(邑南町教育委員会生涯学習課課長補佐)

佐藤 匡裕 氏(邑南町高原公民館主事)

片桐 政彦 氏(邑南町井原公民館主事)

小講義:大森 伸一 氏(県教育庁社会教育課)



大橋氏



佐藤氏



片桐氏

感想

大橋さんからは、子どもたちをふるさとという学校で育てることで“将来の隣人を育てる”という熱い想いを発表していただきました。地域での多様な人たちとの出会いや共同体験をすることで、地域の課題に目を向けることや、地域への愛着が増すことをあげる一方で、親世代が地域の宝を知らないことから、町全体でふるさと教育を進める重要性を話されました。佐藤さん、片桐さんからは、“おおなんサマーボランティアリーダー研修”で子どもたちが地域の方と一緒に映画作りをした様子を紹介していただきました。子どもたちは、体験する中で、協力や最後までやり遂げる大切さ、地域の方の想いを知ることができた研修であったと思います。

ふるさと=学校という考え方が、地域で子どもを育てる意識としてわかりやすかった。ふるさとがまるごと学校、学びの地であり、成長の地であるといいですね。

新プログラム対応親学ファシリテーター養成講座

11月 7日(金):いわみーる

11月26日(水):江津市地場産センター

12月10日(水):益田合庁



浜田教育事務所
伊津氏



浜田児童相談所
岩谷氏

(午前)

説明Ⅰ:新プログラムの概要

講義Ⅰ:いじめの正しい理解

講義Ⅱ:児童虐待の正しい理解

説明Ⅱ:新プログラム開発の趣旨と方向性

(午後)

説明・演習

説明Ⅲ:実施に

あたって

意見交換

